

開催日：令和元年6月25日

当日意見

議題1：令和元年度のスケジュールについて

※この議題に関しては、特に委員から発言等はなかった。

議題2：浜松市浜北区における有床産科診療所の整備について

- ・ 18床の産婦人科を何人の医師で運営していくのか。
※事務局から、常勤医師1名、非常勤医師1名の体制で開設し、今後は医師の人数を増やしていく予定であると回答した。
- ・ 浜松市浜北区の年間出生数は800ぐらいあるので、有床産科診療所を開設していただけるということであれば、願ってもないことである。
- ・ 浜北区、天竜区における分娩施設の開設は非常によいことであるが、常勤医師1名、非常勤医師1名の体制では、分娩数が増えてきたときは医師の人数が少ないということで問題かもしれない。診療所から一番近い連携施設は浜松医大なので、連携して対応することはできると思う。
- ・ 天竜区では子供を自然分娩では産めないし、予定外に破水してしまう妊婦もいるので、医師2人体制というのは大変だとは思いますが、有床産科診療所が増えることはよいことだと思う。
- ・ 最後に、西部保健所長から有床産科診療所（ことみ レディス クリニック）の開設を承認することについて最終確認をした。委員からは特に開設に反対する意見は出なかった。

議題3：医師確保計画の策定について（骨子案）

- ・ 本県は医師少数県ではあるが、西部圏域は医師多数圏域である。浜松医科大学のおかげで医師数については恵まれた圏域であり、全県に医師を供給する側の立場ということになっている。
- ・ 西部医療圏は本当に医師過剰なのか。自分が勤務している北遠地域は医師が非常に少ないが、その北遠地域が所属している西部医療圏自体は医師が多いとされている。県の奨学金をもらっている学生さんが医師になったときの義務として、医師少数区域で働くことが課せられているが、西部医療圏は医師が多いとされてしまうために北遠地域は医師少数区域から外されてしまう。そのため、ぜひとも医師少数スポットに指定していただきたいと思っているが、北遠地域が医師少数スポットになるのは条件的にかなり厳しいようである。北遠地域を医師少数スポットとして認めてもらわないと、本当に北遠地域から医師がいなくなって大変なことになる。

※この発言に対しては西部保健所長が、どのような地域を医師少数スポットとするかの議論はまだ固まっていないことをあらためて説明した。

- ・ 今後は、曜日ごとに医師を分けるなどの方法で過疎の地域を応援に行くのが現実的だと思われる。少しずつみんなで負担していくという形での過疎地域の支援が、一番現実的ではないかと思われる。
 - ・ 医師確保計画に関しては、医師少数スポットの話も大事ではあるが、いかにして医師少数県である静岡県全体に医師を供給していくかが非常に大切である。また、医師を育てる場である浜松医大をはじめとした基幹病院があるという点において、非常に恵まれている西部医療圏で、これまで以上に若い先生方を確保していくにはどうしたらよいか、という視点が特に重要である。
- ・ 県の地域医療協議会でも説明させていただいているが、医師確保計画は医師少数スポットの件、奨学金をもらっている医師の件、若い医師の確保、中堅の医師の確保、短期的な計画、長期的な計画、様々なものを組み合わせたものであるということをお理解いただきたい。

議題4：平成30年度病床機能報告結果等について

- ・ 事務局から、市立湖西病院の休床病棟について病院側の今後の方針を報告した。2病棟のうち1病棟については、令和3年に職員を確保し、令和4年には地域包括ケア病棟として再開する予定である。もう1つの病棟については現在も検討中であり、本年度の改革プラン評価検討委員会（湖西市が主催）の場で協議することになっている。この報告に関して委員からは特に意見等は出なかった。
- ・ 厚生労働省から地域の実情に応じた定量的な基準の導入を求める通知が来ていることについて事務局から説明し、静岡方式に基づく試算を正式に導入することについて委員に了承を求めたところ、委員から特に異論は出なかった。
- ・ 病床機能報告は病棟単位で報告しているため、高度急性期、急性期の病棟として報告している病棟内にある回復期の病床が数字として報告結果に反映されていない。病床機能報告であがってくる回復期の病床数が、静岡方式に基づいた試算よりも少ないのはこのことが原因と思われる。よって、病床機能報告で回復期の病床が不足しているという結果が出ていても、回復期の病床が不足して困っているという現場の声が上がってこない以上、現状はあまり動かさない方がよいと思われる。
- ・ 現場感覚としては、西部医療圏の回復期病床は、十分に足りていると思われる。患者さんが入院先をあまり選ばなければ、いつでも回復期の病床は空いているはずである。

報告1：地域医療介護総合確保基金（医療分）について

- ・ 以前、この西部地域医療構想調整会議でも基金に関する提案募集をもっと早くしてほしいという意見が出ていたが、今回はそれが反映されて例年よりも少し早めに意見募集することになったのだと思われる。

その他

- ・静岡県地域医療構想アドバイザーから当日配付された「令和元年度 第1回 地域医療構想調整会議 参考資料（静岡県西部地域用）」についての説明があった。特に、医師偏在指標、外来医師偏在指標に重点をおいた説明がなされたが、これに関して特に委員から意見・質問等はなかった。また、関連する催しとして「地域医療シンポジウム in いわた」のチラシが配付された。